

ピースウィンズ・ショップから

夏はもうそこまで!
サマーギフト開始しました

定番のコーヒーギフトや暑い夏にぴったりの水出しコーヒーギフト、涼しげな夏限定ラベルの各種コーヒーギフトの販売を始めました!お中元時期に合わせて、東京は恵比寿にある『おかし屋ばれっと』さんのクッキー入りのギフトも受付開始です。お世話になったの方へ、ピースウィンズのギフトを是非、ご利用ください。
※クッキーの賞味期限は1か月となっております。贈物としてご注文の際にはご留意ください。



支援地レポート

ネパール

ネパールでは、2015年4月の大地震から4度目の雨季を迎えました。しかし、倒壊した建物の再建は十分に進まず、現金収入を求めてますます海外への出稼ぎが増えています。農村への出稼ぎが進んだ結果、そこに残存化・空洞化が進んだ結果、そこには女性たちです。PWJは、農村での暮らし女性の生活改善が、ネパールの復興を支えると考え、水、農業、伝統工芸の3つの側面から支援を続けます。



スリランカ



スリランカのPWJ事業関係者7名が3月に来日し、現地における農業・酪農業の生産性の向上と、新たな市場の開拓を目的として、広島県内で農業研修を受けました。神石高原町役場や、島根県雲南市の酪農会社も訪問しました。今回の研修や視察が、スリランカでの酪農業の発展と、国を超えた地域間の連携につながることが期待されます。

アフガニスタン

4月中旬、アフガニスタンの提携団体のスタッフが来日し、市民社会の能力建設事業に関する調整会議を行いました。現在のアフガニスタンの治安状況や、今後の事業の方向性を話し合つたほか、日本のネットワーク型NGOの経営体制を調査したり大使館を訪問したりと、有意義な滞在になりました。PWJは今後も、日本とアフガニスタンの関連団体と連携し、サポートを続けます。



発行／特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

本部事務所:〒720-1622 広島県神石郡神石高原町近田1161-2 2階 ☎0847-89-0885(代表)

東京事務所:〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷2-41-12 富ヶ谷小川ビル2階 ☎03-5738-8020 フリーダイヤル☎0120-252-176

佐賀事務所:〒840-0831 佐賀市松原1-3-5 ゼロワン佐賀ビル6階 ☎0952-20-1607

ホームページアドレス <http://www.peace-winds.org> Eメールアドレス meet@peace-winds.org

発行人/大西健介 編集責任者/町浩一郎 執筆協力/大石裕美、川越東弥、佐藤健、里脩三 レイアウト/菅野加代子



すっきり美味しい
水出しコーヒーは
いかがでしょうか

夏といえば、アイスコーヒー!特に水出しコーヒーはスッキリとしたきれいな味わいが特徴でやめられません。そんな水出しコーヒーがご自宅で手軽に作れる東ティモールの有機水出しコーヒーはいかがでしょうか。麦茶ポットに入れて一晩漬けておくだけで、翌朝には本格水出しコーヒーができているという優れもの!ご自宅はもちろん、ギフトにも最適な水出しコーヒーを是非、この機会にご利用ください。

ご注文は、<http://pwshop.ocnk.net/>

FAX:03-3465-2112 またはTEL:03-5738-8021まで

※ピースウィンズ・ショップの収益はPWJの支援活動に活用されます。

ピースウィンズ・ニュース



難民の約4人に1人はパレスチナ難民だということをご存じだろうか。国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)によれば、世界の難民2,250万人のうち、530万人がパレスチナ難民だ。

今年はパレスチナ人が土地を追われ難民となった「ナクバ(大災厄、大惨事)」から70年を迎えた。占領下やキャンプでの生活しか知らない世代が増え続ける中、イスラエルによる封鎖から10年の間に3度の紛争が起きたガザ地区では、軍事攻撃で多くの民間人が死傷し、インフラが破壊された。

人や物の出入りが厳しく制限された封鎖下で、若者の失業率が約60%に達するガザ地区の深刻な状況を受け、ピースウィンズ・ジャパン (PWJ) は2015年から2年にわたり、紛争で被災した若者の就労の機会をつくって彼らが生活費を稼げるよう支援してきた。教育、保健、農業などの分野で活動する現地の市民団体に若者を数か月派遣し、その間の賃金はPWJが支払う。若者は実地で経験を積みながら就職につながるスキルを磨き、受入れ団体は有望な人材を確保できる。失業率の高さから、短期の就労経験だけで雇用という成果を出すのは難しいが、これまで1,200人以上の若者が活動に参加し、教員に採用されるなど、職を得る者も増えつつある。

ガザ地区は人口の約4割が29歳以下という若年社会。2017年の失業率は43.6%と、依然として世界最悪のレベルで、大学を卒業しても職がなく、若者たちが将来に希望を見いだせない状況が続いている。その不満や疎外感が過激な行動につながれば、地域はさらに不安定になる。PWJはこれまでの活動を踏まえ、今年からより中長期的な支援として職業訓練事業に取り組んでいる。新たに保健分野での活動も視野に入れ、若者たちに希望をもたらせるよう支援する計画だ。

※パレスチナでの活動は、皆様からの温かいご支援に加えて、ジャパン・プラットフォームの助成金や外務省の補助金を受けて実施しています。



封鎖されたガザ地区の若者に希望を—
子どもたちの健康診断の
補助を務める若者

peace winds
JAPAN

支援のプロを、
世界の現場へ

寄70

pari 年 の 苦 難 に
添 う 支 援 を
レスチナで

台湾地震捜索・救助活動

2月6日、台湾で発生した地震に対応し、PWJは、アジアパシフィックアライアンス（A-PAD）などとの合同支援レスキュー隊長・黄春源を現地に派遣し、パートナー団体である「鉄漢隊」と連携して捜索・救助活動を行いました。

現地では、救助活動に加えて、負傷者の応急処置などをする医療班の調整も担当し、交代しながら24時間体制で支援に当りました。パートナー団体からは「鉄漢隊全員からPWJとA-PADに感謝いたします」とのメッセージが寄せられました。

多くの皆様のご支援に、この場をお借りして改めて感謝いたします。



台湾地震現場の様子

岡山県笠岡市と災害支援協定を締結

3月16日、PWJと岡山県笠岡市は、航空機を活用した災害時の支援協力に関する協定を結びました。

瀬戸内海に面した笠岡市には多数の島があり、災害時に素早く島民の方々を避難させることや、けが人の搬送などが大きな課題となっています。災害が発生、または発生するおそれがある場合に、PWJが運用している航空機を活用し、被害状況などの情報収集や人員・救援物資の輸送などをすることで、被害の防止や軽減を目指します。

昨年10月に笠岡市ふれあい空港で開かれた、マグニチュード9.0の南海トラフ巨大地震を想定した防災訓練では、PWJがヘリコプター2機で笠岡諸島の北木島の島民をふれあい空港まで避難させる演習をしました。以降、協定の締結に向け、市とPWJの間で協議を重ねてきました。

今後は、笠岡市の消防、警察などの方々とも協力し、防災訓練などを計画していく予定です。



お知らせ レストラン、カフェ、ショップの複合施設「庄原ガーデンヒルズ」をオープン

広島県庄原市の国営備北丘陵公園内に3月24日、PWJが運営するレストラン、カフェ、ショップの複合施設「庄原ガーデンヒルズ」がオープンしました。庄原市や地元の観光協会、商工会などが参加する社会実験の一環で、にぎわいづくりを目指します。



大分・中津市での土砂崩れにおける救助活動

4月11日、大分県中津市耶馬渓町で土砂崩れが発生しました。これを受け、PWJは、A-PADジャパンなどと合同で医師を含むレスキュー隊10名・救助犬3頭を現場に派遣しました。

夜を徹して行われた救助活動で合同レスキュー隊・救助犬は、3つに分けられた区画のうちの1つを担当し、現地の消防、警察などと協力しながら、被災した人の捜索にあたりました。

多くの皆様のご支援に、この場をお借りして改めて感謝いたします。



現地医療チームとPWJ医師



現地対策ミーティング

見地対策本部

見地対策本部

支援の現場から

シエラレオネ 洪水被災地復旧支援の終了報告

被災世帯への生活物資配布

「あなたがたの支援に、本当に感謝しています」。優しい笑顔で答えてくれたのは、今回の洪水で被災したお母さん。被災前は川の近くに住んでおり、洪水や土石流によって家とすべての家財道具、そして、最愛の旦那さんを亡くされました。配布当日は息子と2人で物資を受け取りに来てくれました。

2018年2月、PWJと現地パートナー団体CEDAが支援している首都フリータウンのカニンゴ地区で生活物資セットと寝具セットを配布しました。対象は、政府から特に手厚い支援が必要だと指定を受けた、カニンゴ地区に登録された228世帯です。



被災者に配布の流れを説明する様子



15人で暮らすハワさん一家

「これで明日からぐっすり眠れます。ありがとうございます」。そう話してくれたのは、子どもたちと来ていたタンバさん一家と、妹たちと来ていたハワさん一家。ベッドは洪水の時に流失してしまった、今は床に直接寝ているそうです。

PWJの活動にご協力ください

*認定NPO法人のPWJに対するご寄付は、寄付金控除の対象となります。

【郵便振替】

口座番号: 00160-3-179641

加入者名: 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

*特定の地域・活動へのご支援の場合は、通信欄に国名等(東日本大震災の場合はその旨)を明記してください。

【銀行口座】

●PWJの活動全般へのご寄付

銀行名: 三井住友銀行 青山支店

口座番号: 普通 1671932

口座名義: 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン広報口

●PWJの東日本震災支援へのご寄付

銀行名: 三井住友銀行 桜新町支店

口座番号: 普通 6723184

口座名義: 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

*領収書が必要な場合はご連絡ください。ご連絡をいただかない場合、銀行振込ではご住所が分かりかねますので、領収書を発行できません。

災害前、カニンゴ地区の河川周辺にはたくさんの人びとの暮らしがありました。彼らの多くは今回の洪水・土石流で家を失い、家財道具のほとんどを失いました。長年かけて買いそろえた家財道具は、彼らにとって大きな財産です。すぐに買い戻すことは難しく、今回のような支援は本当に助かると話してくれました。離れた土地へ引っ越し人、親戚の家に身を寄せる人、土砂が流入した家を掃除して再び住む人など、被災者の状況はそれぞれ異なりますが、支援が彼らの新しい生活の助けとなり、心穏やかな幸せな日々が再び戻ってくることを祈っています。

被災地のこれから

2017年11月に始まった支援は、物資配布、地域住民が共用で利用する井戸の修繕、コミュニティスクールの井戸・トイレ建設、ヘルスセンターの整備と多岐にわたりましたが、今年3月7日をもって無事に終了しました。PWJがフリータウンを去った後も、カニンゴ地区の住民が主体となり修繕、管理を続けます。



修繕後のコミュニティスクールのトイレ

災害で一度失ってしまったものはもう帰ってきませんが、これからも被災者の生活は続きます。そして、気候変動によって天候が変化する中、またいつ同じような天災に見舞われるか分かりません。

今回整備した施設・設備は、今後また来るかもしれない災害の際も、洪水や押し寄せる被災者に耐えられる強度と許容量を備えています。万が一の時にも最良の衛生環境が保たれ、人びとを守ってくれることを願ってやみません。

本事業はジャパン・プラットフォームの助成金とサポーターの皆様からの寄付金で実施できました。たくさんのご支援・ご協力をありがとうございました。改めて御礼申し上げます。PWJはこれからも、より支援の必要な地域で活動を続けていきます。

※シエラレオネ大洪水

2017年8月14日、世界で最も貧しい国の一つであるアフリカ西部シエラレオネで、豪雨が首都フリータウンなどを襲い、大規模な洪水と土砂崩れを引き起こした。

死者は1,000人超、被災者は約6,000人と、アフリカ諸国を近年襲った自然災害では最大級の被害となった。

メディア
掲載報告

- 2/5 AERA: 代表大西のインタビュー掲載
- 2/20 読売新聞: 東ティモールでの活動紹介
- 3-4月 中国新聞 山陽新聞: 庄原ガーデンヒルズの紹介掲載
- 4月 広島県が発行する「働き方改革・女性活躍発見サイト」でPWJが女性活躍優良事例として紹介